

◀ 卷頭言 ▶

理事・弓削商船高専同窓会長

柏木 実



新型コロナ
ウイルスは、
大都市ばかり
ではなく全国
的に感染の拡
大が続いてお
り、収束の兆
しが見えず、
ウイズコロナ
の時代を迎
えようとしておりますが、会員の皆様方におか
れましては如何お過ごしでしょうか。

さて、弓削商船高等専門学校は、昨年 2021
年 11 月 12 日、創基 120 周年・高専創立 50
周年記念式典を挙行しました。

コロナ禍の中、大変制約された状況ではあ
りましたが、お陰をもちまして大過なく無事
終了することができました。これも偏に皆様
方の温かいご支援の賜と心より感謝を申し
上げます。

また、本年 1 月 11 日の創立記念日には、
上島町長殿はじめ皆様方にご臨席を賜り、先
輩諸氏の方々のご冥福をお祈りし、日本の繁
栄の礎を築いて来られた御靈に敬意を表し、
衷心より感謝を申し上げました。

商船系高等専門学校 5 校は、全校 120 周年
を超える歴史を誇り、明治、大正、昭和と激
動の時代の中、海運立国日本を支える優秀な
人材を数多く輩出し、諸先輩の方々は大変な
ご苦労をされ、戦前戦後を通じ、海事産業発
展のため多大なる貢献をして来られました。

このところ、文科省、国交省において今後
の商船教育の在り方について論議されてお
ります。

一般の大学卒業の学生を海技教育機構で
教育し、乗船させる「新々 3 級制度」を関係
省庁へ立案し、協議が始まっております。

海技大学校設立の目的は、部員の方々にも
門戸を開き、長年船の経験を積んだ方々が、
海技免状を取得するための教育を受け、士官
として乗船勤務できるようにするというも
ので、卒業した人達は現場を熟知しており問
題なく仕事をこなすことができました。

新々 3 級制度は、海技教育機構での教育期
間はわずか数年なので、船の概要を頭では理
解できるものの体得するのは困難であり、船
舶にとっての最重要課題である安全運航を
担保できるかどうか甚だ疑問が残るところ
です。

海運業界はすそ野が広く、業界を縁の下で
支えている多数の中小船社がいることも忘
れてはなりません。

教育は、誰もが平等に受けられる制度でな
ければならず、また、教育を受けた学生が、
中小の船社にも充分に行きわたるような公
平な制度でなくてはならないものと思って
おります。

一方、商船系高等専門学校の改革案につい
ては、就学期間は 5 年とし、船乗りを希望す
る学生は、卒業後、再度、海技教育機構に入
学し、練習船実習を行い、はじめて海技免状
を取得できる資格を得ることになる新たな
制度を検討中であると伺っております。

高等専門学校の設立の趣旨は、現場で即戦
力となる技術者の育成、および、地域社会、
企業への貢献を目的として創設されました。

商船系高等専門学校を卒業しただけでは
海技免状を取得する資格はなく、士官として

船に乗ることができないばかりではなく、高等専門学校設立の大義名分から大きく逸脱し、商船学校とはいはず、一般の工業系高等専門学校と何ら変わらない学校となってしまいます。

このような中途半端な教育機関では、世界の海に羽ばたく船長・機関長になろうとの大きな夢と希望を抱いた学生の入学は非常に困難な状況となり、将来の日本国、および、海事産業にとって大きな痛手になるのではないかと大変憂慮しております。

今後は、AIが急速に発展を遂げ、太平洋を無人で航行する船が出できてくるとの構想があります。

確かに陸上を走る車は、良質なガソリン、および、電気を原動力としており、エンジンは故障することなく、万が一トラブル発生した時には即、業者を手配し、修理をしてもらうことができるので自動運転が可能になるのは目前となっております。

一方、船はといえば、太平洋の真っただ中、タール、ピッチのような重質油を燃料として使用しているため、主機関のみならず周辺機器にも頻繁にトラブルが発生し、乗組員が修理しないと大時化の中航行不能となり、最悪の場合横転し沈没してしまうことにもなりかねません。

刻々と変わる風、および、うねりの方向に対応し、進路、速力を適時変えなければならず、操船を誤れば巨大船の船体が真二つに折損する重大事故にも繋がります。

大型船においてはAIでは対応しきれない課題が多数存在し、何時の時代がきても船舶を安全に運航し、無事目的地に荷物を届けるためには乗組員は必要不可欠な存在であると考えます。

現在、世界情勢は混迷の度を深め、先行き不透明な時代に移り変わってきておりますが、日本船隊を運航し維持管理するのは日本

人船員であり、今後ますます、その存在価値が問われ、ニーズが高まる時代になってくるものと思われます。

商船系高等専門学校は、中学校を卒業したばかりの船員になるとの熱き志を持った純真無垢な学生を、船内生活に順応するため、入学当初から全寮制を敷き、5年半の長きに亘って教育し、船乗りとはどうあるべきかの基本、および、船舶にとっての最重要課題である安全運航を身体で覚えることができ、陸とは全く隔離された海上での特殊な環境の中、想像を絶する困難、苦難に遭遇しても、荷主様から預かった大切な荷物を事故なく無事目的地まで届けるノウハウを習得した眞の船乗りとして世界の海で活躍する現場を預かる責任者を育成する商船士官養成専門学校であり、今後も日本国海事産業発展に大いに貢献しなければならない教育機関であると確信しております。